

5. 学生が制作した教材を用いた環境学習の実践
[2014年1月21日]

例えばダンゴムシの動きを観察するだけでなくその動きを真似ることで子どもたちはダンゴムシに対する理解や興味をより深められ、イシマキガイの観察だけでなくそれに関する絵本を読み語ることで世界を広げることができます。



ダンゴムシの観察と着ぐるみを用いたなりきり遊び



ゲームを用いた森の動きに関するデモンストレーション

以上のように自然体験と様々な表現活動(描画活動やなりきり活動など)を組み合わせることで、子どもたちの動植物に関する認識を強化させることができ、学生は本演習(教材づくりとそれを用いた環境学習プログラムの実践)を通じてそれを体験的に学ぶことができました。



兵庫県立大学COC事業

あわじ環境未来島構想系プロジェクトフィールド



連携自治体
淡路市
洲本市
南あわじ市
兵庫県

プロジェクトフィールドの概要

地域住民が自然に寄り添い、自然の中で培ってきた環境負荷の少ない生活、歴史・文化、地域の動植物を活用した景観保全・景観づくりの取組み促進の役割を担います。

特に淡路島には、都市に近接した立地で、自然豊かで山・川・海のつながりを持ち、比較的閉じた「系」の中で育まれてきた生活があります。大学として主体的に参画し、島特有の環境を生かす地域活性化の取り組みや、農林水産分野に關係する景観資源等の保全や活用に関する教育・研究を強力に推進していきます。

プロジェクトと地域の関わり

淡路島においては、自然環境の上に成り立つ人の営みを活かしていくことが、持続的な地域やその発展になると考え、自然と人との関わりにより作られ守られてきた景観をキーワードに、農村景観、里山景観、海岸景観、都市景観、景観とコミュニティなどのテーマに関する教育・研究と、社会貢献に向けての活動・発信を行ってまいりました。

プロジェクトの目標

これまで淡路地域で実施してきた教育研究、社会貢献活動の実績からニーズとシーズを明確にし、より効果的な地域課題解決の手法をつくります。そのために地域住民・行政と、地域貢献型の教育研究のあり方を共有し、協働の基盤をつくる必要があります。景観の保全と創出のメカニズムを明らかにし、保育園から高校生まで各年齢に応じた景観教育や、地域住民に向けてその楽しさを伝えるプログラムをつくるなど、景観形成の幅広い担い手を育てる手法を幅広い開発します。

取組みの成果として、淡路地域の景観の現状と活動、蓄積された理念や手法などを、「あわじ景観ストラテジーブック」として編集し、地域の共有情報とします。



大学院学生による高校生とのワークショップ(淡路市)



シンポジウムにて研究成果を地域住民と共有(淡路市)



ICTを用いて離れた地域の中学生に授業を実施(淡路市)



市民に向けて地域の景観の課題をレクチャー(洲本市)

プロジェクトリーダーからのメッセージ



緑環境景観マネジメント研究科
藤原道郎教授

持続的な地域の実現やその発展には、自然環境の上に成り立つ人の営みを活かしていくことが大切です。自然と人との関わりにより作られ守られてきた景観が継承されていくことは、持続可能な地域が成立していることの指標と言えるでしょう。淡路島には、ため池や棚田などの農村景観、竹林の拡大防止などの里山景観、松原や海浜植生などの海岸景観、街路樹の維持管理や沿道緑化などの都市景観、景観を活かした地域コミュニティの活性化など、景観の課題がたくさんあります。地域住民と共に課題解決の方法を探っていきましょう。